

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI  
(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

002259639

WPI Acc No: 1979-58841B/197932

Prepn. of toner for developing electrostatic latent image - by dispersing colouring agent and/or magnetic particles in thermoplastic resin and spraying and cooling the mixt.

Patent Assignee: TOKYO SHIBAURA ELECTRIC CO (TOKE )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 54080752	A	19790627				197932 B
JP 81013945	B	19810401				198117

Priority Applications (No Type Date): JP 77148360 A 19771210

Abstract (Basic): JP 54080752 A

Colouring agent and/or strongly magnetic particles are dispersed in thermoplastic resin. The resultant resin mixture is sprayed and cooled to give spherical particles. The toner obtained is spherical, has smooth surface and excellent flowability, and does not mass. Colouring agent is e.g. Acid Green, C. black, Benzidine Yellow G, etc. The magnetic particles are e.g. of Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>, gamma-ferrite, strontium ferrite, etc. The thermoplastic resin is pref. polymer having long-chain alkyl group in the main or side chain; e.g. alkylacrylate, N-alkyl acrylamide, linear unsaturated alkyl type polyester, polyamide resin, alkyl silicone waxes, etc.

Title Terms: PREPARATION; TONER; DEVELOP; ELECTROSTATIC; LATENT; IMAGE; DISPERSE; COLOUR; AGENT; MAGNETIC; PARTICLE; THERMOPLASTIC; RESIN; SPRAY; COOLING; MIXTURE

Index Terms/Additional Words: POLYACRYLATE; POLYACRYLAMIDE; POLYESTER; POLYAMIDE; SILICONE

Derwent Class: A89; E24; E31; G08; P84; S06

International Patent Class (Additional): C08J-003/12; G03G-009/08

File Segment: CPI; EPI; EngPI

Manual Codes (CPI/A-N): A11-A04; A12-L05C; E21-C21; E25-D; E31-N04; E35-U; G06-G05

Plasdoc Codes (KS): 0229 0231 0486 0493 0640 1283 1293 1306 2208 2210 2321  
2329 2511 2541 2808

Polymer Fragment Codes (PF):

\*001\* 011 03- 04- 05- 074 076 079 081 086 141 143 146 229 305 307 364 365  
368 38- 393 427 475 658 659 688 725

Chemical Fragment Codes (M3):

\*01\* C810 C106 Q333 Q606 Q339 Q348 M781 M411 M902  
\*02\* A940 A980 C730 C108 C803 C802 C807 C805 C804 C801 C550 A204 A238  
A426 Q333 Q606 Q339 Q348 Q611 M781 R032 R035 R036 M411 M902

Chemical Fragment Codes (M4):

\*03\* K0 J6 J5 H6 M121 M111 M282 M210 M231 M260 M311 M332 M322 M340 M343  
M380 M392 G100 M533 K530 K599 J341 J342 J582 H602 H608 W030 W113  
W124 W125 W131 W003 M510 M520 Q339 Q348 Q346 M540 W554 W334 M781  
R032 R035 R036 M414 M902

\*04\* K0 H1 M121 M132 M282 M210 M231 M270 M311 M332 M323 M342 M340 M370  
M392 C106 L740 G100 M150 M533 L730 L750 K431 K432 K499 H142 H143  
W032 W033 H103 W003 M510 M520 Q339 Q348 Q346 M540 W554 W323 W336  
M781 R032 R035 R036 M414 M902

## ⑪特許公報(B2) 昭56-13945

⑫Int.Cl.<sup>3</sup>G 03 G 9/08  
C 08 J 3/12

識別記号

厅内整理番号

6715-2H  
6681-4F

⑬公告 昭和56年(1981)4月1日

発明の数 1

(全3頁)

1

2

## ④静電潜像現像用トナーの製造方法

⑤特 願 昭52-148360

⑥出 願 昭52(1977)12月10日  
公 開 昭54-80752

⑦発明者 小口寿彦

川崎市幸区小向東芝町1番地東京  
芝浦電気株式会社総合研究所内

⑧発明者 斎藤一吉

川崎市幸区小向東芝町1番地東京  
芝浦電気株式会社総合研究所内

⑨出願人 東京芝浦電気株式会社

川崎市幸区堀川町72番地

⑩代理人 弁理士 鈴江武彦

## ⑪引用文献

特 公 昭39-17404 (JP,B1)

特 公 昭44-7142 (JP,B1)

特 開 昭48-95444 (JP,A)

## ⑫特許請求の範囲

1 熟可塑性樹脂に着色剤および強磁性粉末のうちの少なくともいずれか一方を分散せしめた後、この樹脂を溶融した状態で4.00℃以上、2kg/cm<sup>2</sup>以上の熱圧縮ガスを用いた二流体ノズルに供給して噴霧化し、冷却して球型化せしめることを特徴とする静電潜像現像用トナーの製造方法。

発明の詳細な説明

本発明は電子写真及び静電記録の分野に採用される静電潜像現像用トナーの製造方法の改良に関するものである。

周知の如く、この種の分野における現像法としては、熟可塑性樹脂中にカーボンブラック等の着色剤を分散せしめてなる着色微粒子(トナーと称す)とこれに所望の帯電を付与する鉄粉(キヤリヤと称す)とを混合したものを、磁石棒に付着せしめて磁気ブラシを形成し、このブラシを被現像

部材(たとえば感光体)に形成された静電潜像に接触させて現像を行なう、いわゆる磁気ブラシ現像法が最も一般的に採用されている。

ところで、従来、上述した現像法による現像後の顕像を定着させる方法として、トナーの構成成分である熟可塑性樹脂を加熱溶融せしめる加熱定着法が行なわれている。しかしながら、この方法にあつて定着器をトナー中の熟可塑性樹脂を加熱溶融するに十分な温度に維持しなければならないため、多量の電力を必要とし、しかもスイッチを入れてから必要温度に達するまでのウォームアップタイムが必要となり迅速作動の障害となる等実用上の欠点を有する。

しかして、上記欠点を解消するために、最近加熱圧着法に代つて圧力定着法が提案されている。ここに用いられるトナーは、上述の加熱定着法に使用されるトナーと異なり、球型で表面平滑性に富み、圧縮状態下での表面軟化流動性が良好なこと、及び圧縮状態下で容易に変形すること、が要求される。しかしながら、従来のトナーの製造方法は着色剤と樹脂とを熱混練し、機械的に微粉碎し、分级して着色微粒子を得るため、樹脂として圧縮状態下で容易に変形するものを用いると、粒度が不揃いで表面平滑性が劣るトナーしか得られず、しかも粉碎操作において粉碎粒子が团塊化するなどの問題があつた。

本発明は上記問題を解消するためになされたもので、圧縮状態下で容易に変形する熟可塑性樹脂を用いても、球型で表面平滑性に富み、しかも团塊化のない流動性の優れた静電潜像現像用トナーを製造し得る方法を提供しようとするものである。

すなわち、本発明方法は熟可塑性樹脂に着色剤および強磁性粉末のうちの少なくともいずれか一方を分散せしめた後、この樹脂を溶融した状態で4.00℃以上、2kg/cm<sup>2</sup>以上の熱圧縮ガスを用いた二流体ノズルに供給して噴霧化し、冷却して球型化せしめることを特徴とする静電潜像現像用トナーの製造方法である。

## トナーの製造方法。

本発明に使用する熱可塑性樹脂としては、ある温度以上で著しく粘度が低下して液状となり、噴霧化を容易に行なえる長鎖アルキル基を主鎖または側鎖にもつポリマーが適している。具体的には、<sup>5</sup> アルキルアクリレート、アルキルメタアクリレート、アルキルハロアクリシート、アルキルビニルケトン、アルキルスチレン、N・N-ジアルキルアクリルアミド、N-アルキルアクリルアミド、<sup>10</sup> ビニルアルキルエーテル、ビニルアルキルビリジン、高級不飽和脂肪酸二量体とジオールよりなる線状不飽和アルキド形ポリエステル、高級不飽和脂肪酸二量体とジアミンよりなるポリアミド樹脂、アルキルポリエーテル、アルキルポリウレタン、<sup>15</sup> アルキルフェノールアルデヒド樹脂、アルキルシリコン、アルカリシリコン等の重合体或いはこれらの共重合体または混合物、その他固形パラフノン、高級脂肪酸、及びこのエステル、金属塩、アマイド、または各種ワックス類、低分子ポリオレフィン等を挙げることができる。場合によつては、これら各種樹脂に天然樹脂、スチレン樹脂、アクリル樹脂、ポリエステル樹脂、エポキシ樹脂、アルキド樹脂を混合したもの用いてもよい。

本発明に使用する着色剤としては、たとえばスピリットブラック、アシドグリーンなどの染料或いはカーボンブラック、フタロシアニンブルー、ベンジシンエローG、フアナスオレンジなどの顔料等を挙げることができる。

本発明に使用する強磁性粉末としては、たとえば四三酸化鉄、マーフェライト、バリウムフェライト、ストロンチウムフェライト等を挙げることができ。

本発明における熱可塑性樹脂に対する着色剤または強磁性粉末のいずれか一方または両者の配合割合は通常該樹脂に対してこれら着色剤、強磁性粉末を5~50重量%配合することが望ましい。

本発明における噴霧化手段に用いる熱圧縮ガスの温度条件を限定した理由は、該ガス温度を400°C未満にすると、着色剤や強磁性粉末を含む溶融樹脂を球型で表面平滑性に富む粒子に噴霧化できなくなる。また、同熱圧縮ガスの圧力条件を限定した理由は、該ガス圧力を2kg/cm<sup>2</sup>未満にすると、二流体ノズルに近接した溶融樹脂供給ノズル付近を十分低圧化できず、その溶融樹脂の供

給が難しくなるばかりか、十分効果的に球型化できない。

しかして本発明によれば着色剤、強磁性粉末を分散せしめてなる着色熱可塑性樹脂を溶融した状態で所定の温度、圧力の熱圧縮ガスを用いた二流体ノズルに供給して噴霧化し、冷却することによつて、トナーの構成成分である熱可塑性樹脂として圧縮状態下で容易に変形するものを用いても、球型で表面平滑性に富み、しかも団塊化のない流动性に優れた静電像現像用トナーを得ることができる。したがつてこの現像用トナーを使用して被現像部材の静電潜像を現像する場合、その現像用トナーは団塊化のない流动性に優れ、かつ球型で搬送性に優れているため、静電潜像に忠実な現像画像を形成できる。しかも、現像後の現像画像(たとえば転写紙上の転写画像)を圧力定着法により定着処理する場合、現像用トナーは球型で表面平滑性に富み、圧縮状態下での表面軟化流動性が良好なため、著しく定着性の優れた鮮明な定着画像を形成できる。

なお、本発明においては必要に応じて、着色剤、強磁性粉末またはこれらの両者を分散させた熱可塑性樹脂を溶融状態で噴霧化した溶融粒子に、分散状態のカーボンブラック粒子コロイダルシリカ粉等の表面処理微粒子を含有する気流を吹きつけて該粒子の表面に該微粒子の被覆膜を形成してもよい。このような方法によれば得られた現像用トナーの帶電性、抵抗値を容易に制御できるばかりでなくトナー表面が非粘着化して流动性およびブロッキング安定性が著しく向上する。

次に、本発明の実施例を説明する。

## 実施例 1

スチレン-ラウリルメタクリレート(70:30)共重合体(触点110°C)100重量部、<sup>35</sup> 低分子量ポリエチレン(軟化点110°C)30重量部、カーボンブラック10重量部、スピリットブラック3重量部を混合し、ホットロールを5回通して各着色剤が均一に分散した着色樹脂塊を作つた。得られた着色樹脂塊を200°Cで熱溶融状態とするとともに、約500°C、2kg/cm<sup>2</sup>の熱圧縮ガスを用いた二流体ノズルに供給し噴霧化した。噴霧粒子は直ちに冷却し、分级処理して粒径が5~15μの現像用トナーを得た。得られた現像用トナーは球型化しており、かつ

団塊化のない流動性の優れたものであつた。

また、上記現像用トナー30%を鉄粉1000%に混合して磁気ブラシを形成し、この磁気ブラシにより負に帯電した静電潜像を現像したところ、鮮明な現像画像が得られた。さらに、現像画像を普通紙に転写し、この転写画像を4kg/cmの線圧が加えられた2本の鋼製ロール間に通して定着処理を施したところ、画像は普通紙に定着され、この定着画像は指或いは消しゴムによる擦刷後もこの状態を保持していることが確認された。

#### 実施例 2

トナーの構成成分としてカーボンブラック、スピリットブラックに代えて四三酸化鉄粉30重量部を用いた以外前記実施例1と同様な方法にて一成分系磁気ブラシ現像用トナーを得た。

得られた現像用トナーはキャリヤと混合することなく磁気ブラシ現像法にて負に帯電した静電潜像を有する静電印刷紙を現像したところ、鮮明な現像画像が得られた。また、現像画像が形成された静電印刷紙を線圧4kg/cmの2本の鋼製ロール間を通過させて定着処理したところ、該印刷紙上に強固な定着画像を形成できた。

#### 実施例 3

低分子量ポリプロピレン樹脂(軟化点105℃)60重量部と四三酸化鉄粉(平均粒径0.3μ)20重量部とを十分混合した後、ホットロールに通して練肉し該樹脂中に四三酸化鉄粉を分散させた着色樹脂塊を造つた。つづいて、この着色樹脂塊を200℃で溶融状態とし、温度400℃、圧力4kg/cmの圧縮熱空気が供給される二流体ノズルを用いて噴霧化すると共に、該二流体ノズルと

対向したノズルからカーボンブラック粒子を含む20℃の空気流を上記噴霧化樹脂粒子に吹きつけた。この場合、カーボンブラック粒子の供給量は上記噴霧化粒子に対して約2重量%となるよう5エゼクターフィーダーを用いて調整した。次いで噴霧化樹脂粒子とカーボンブラック粒子との複合物を冷却した後、風力分級機に送つて分級し5~30μの一成分系磁気ブラシ現像用トナーを得た。

- 10 得られた現像用トナーは表面にカーボンブラック粒子が均一に付着し、良好な表面軟化流動性を示し、かつ磁気ブラシは使用状態で10<sup>3</sup>~10<sup>6</sup>Ωの抵抗値を有するものであつた。また、この現像用トナーを磁気ブラシ現像法にて負に帯電した静電潜像を有する酸化亜鉛感光膜を現像したところ、鮮明な現像画像が得られ、しかもこの現像画像を普通紙に転写し実施例1と同様な鋼製ロール間を通して定着処理したところ、密着力が強固な定着画像が得られた。
- 15 20 以上詳述した如く、本発明によればトナーの構成成分として圧縮状態下で容易に変形する熱可塑性樹脂を用いても、球型で表面平滑性に富み、圧縮状態下での表面軟化流動性に優れ、しかも団塊化のない分散性の優れた静電潜像現像用トナーを25 容易に製造でき、もつて静電潜像の現像に際して鮮明な現像画像を得ることができると共に、圧力定着法により現像画像(或いは転写画像)の定着処理を行なつた場合、定着性の優れた鮮明な定着画像を得ることができ、更に製造工程も簡略化できる等顕著な効果を有するものである。